

皆様、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

私が気仙沼へ来て、この1月で早や3年になります。上りの東北新幹線で上野駅を降りると、はるばる東京へ来たなと感じます。一方下りの新幹線では、仙台駅を過ぎると、やっと帰って来たなと感じます。

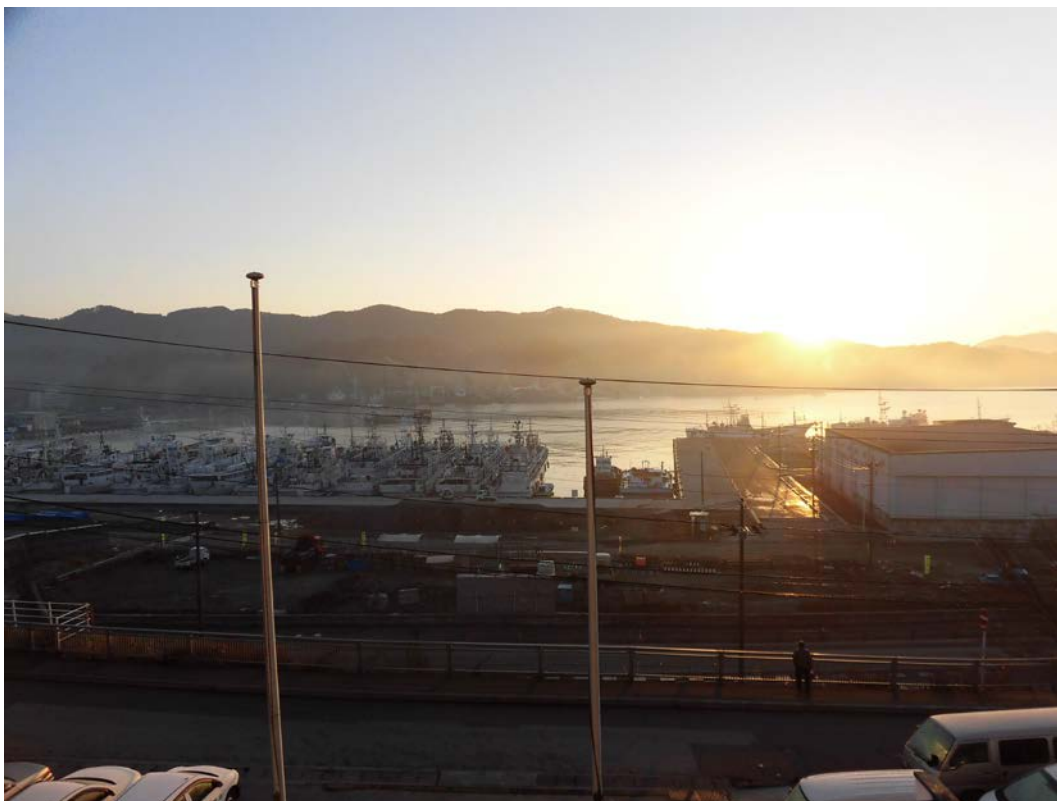
中央の視点から、地方からの視点へ

私の社会を見る眼も、中央からの視点から、地方からの視点へと変わりました。以下は、地方の視点から感じたことです。

- ① 2020年の東京オリンピック・パラリンピック招致の決定では、「おもてなし」
「Tokyo」のニュースで、日本中が沸きました。しかし、私は、これで被災地の復興が遅れるのではないかと思いました。そして、「(放射能汚染水の)状況はコントロールされており、東京にダメージは与えない」(安倍首相)、「福島とは250km離れている。東京は安全だ」(東京招致委員会の竹田理事長)という発言は、福島の人達の心を傷つけました。
- ② 去年の3月、北陸新幹線が金沢まで開通して、金沢や北陸は旅行ブームで沸きました。しかし、JR信越本線・北陸本線は第3セクターになりました。このことは、新幹線の利益はJR東日本が、在来線の赤字は地元自治体が負担することです。また、金沢市の庶民の台所「近江町市場」に多くの観光客が来て混雑するので、地元の人々は市場へ行けなくなりました。その結果、観光客が買わない八百屋は、軒並み売上げが半減しました。
- ③ 地域とは何かについて、考えさせられました。地域の復興とは、生業(なりわい)や衣食住だけではありません。病院や商店・公共交通機関も必要です。それと共に、地域のコミュニティ・伝統・歴史・文化・風習・芸能・祭り等も不可欠です。再度地域を復興するためには、10~20年の年月が必要です。私は、人生の大半を東京で生活していたので、故郷(ふるさと)について考えることがありませんでした。子ども達にとっても、祖父母が住んでいる故郷があればと思います。
- ④ 地方は意外と生活し易いのではないかと思いました。私は仕事で、防潮堤事業の用地買収に協力してもらうために、地権者の方の家へ行きます。仮設住宅に住んでいる人もいますが、多くの方は、昔ながらの家や新築の立派な家に住んでいます。
気仙沼では、宅地の値段は、1㎡当り1万円ぐらいです。200平米(60坪)の土地が、200万円です。家の建築費は、2,500~3,000万円です。固定資産税も安いです。持ち家であれば、年金だけでも生活できます。確かに、繁華街や映画館・マック等はありません。公共交通も不便です。しかし、通勤ラッシュもありません。晴耕雨読の生活も、十分に可能です。

私の任期は、この3月までです。やり残して溜まった仕事を、どうして後継者に引き継ごうかと、頭がいっぱいです。

【日の出の後（寝坊したので）（気仙沼市内湾）】



【防潮堤事業の地元説明会 地元の人々の気仙沼弁は、さっぱりわかりません！】

